

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 259 2016.2.10 連絡先 402-1622 >

みなさんと共に考えるシンポジウム 子どもたちの声がきこえますか

2月7日に開かれたシンポジウムには、会場いっぱいの参加者がありました。

田村智子参議院議員は、子どもに貧困の自己責任を絶対に負わせてはいけない、子どもの貧困実態をどうつかむのか、18歳過ぎれば完全に自己責任、これでいいのか、と提起し、「すべての子ども、若者の自立を支援することが今、政治に求められている」と訴えました。小児科医の佐藤洋一氏は民医連の調査より、貧困家庭は「子どもの健康状態が悪く、肥満で、学校を休みがち」であることを示し、さらに、たとえ子どもの医療費が無料であっても病院に来られない状況があると報告。シングルマザーの女性は「子どもに我慢させることが多い。安定した生活が送れたらと頑張っている」と話しました。子どもの生活支援ネットワークの馬場潔子さんは、“地域のおばちゃん”としてできることをと、週一回、大学生のボランティア等と協力して地域の子どもたちと食事や学習をともにしている活動を報告しました。

会場からは、子どもの貧困の実態をつかむことが難しい、奨学金は少なくとも無利子にすべきであり給付制も必要、などの意見が出されました。

子どもの貧困対策は待ったなしであり、一人ひとりのつながりや学校・地域のネットワークで貧困をつかんでいくこと、若い親世代の収入の底上げが必要など話があり、政治が直接的支援を惜しんではいけない、衣食住の保障はもちろん家庭生活の保障もするべき、そのために引き続き頑張ると田村参議院議員より決意が述べられました。



みち子のひとりごと お宝かも？

いつかきつと。いまは確かめる術は、ちゃんと音が出るかどうかを確かめる術は、



からでしょうか。憶に残っているのは、ドキドキしたそのものよりも、その入り方の方が記憶に残っているのは、ドキドキした

時に関係者という事で市民会館に先に入れてもらい、お客さんが入ると同時に横の扉から客席に入ったという記憶もあります。コンサートそのものよりも、その入り方の方が記憶に残っているのは、ドキドキした

このニューズは毎週水曜日に印刷折り込みをしています。今週は産みの苦しみ？今は火曜日の夜です。横目で「なんでも鑑定団」を見ながらです。それからおさら進みません。この番組を見ていつも思うのは、「うちにはお宝あるかしら？」

掛け軸や屏風の類はありません。立派そうな焼き物もなし、ブリキのおもちゃも珍しい切手もありませんが、あれなら！と思えるものが一つ。

それは、5枚のソノシート。レコードではなくペラのソノシート。半世紀近く前の、懐かしいタイガースのものです。当時父の勤めていた会社のコマーシャルをタイガースがしていた関係でもらえたのです。地方の市にタイガースが来た

松山市の高齢者施策の紹介 「敬老マッサージ補助事業」

目的

高齢者に対し、あん摩・マッサージに要する施術料を補助することにより、高齢者の健康増進と福祉の向上を図る。

対象者

市内に住所を要する満70歳以上の方

事業内容

1人につき1年度（4月から3月までの間）で施術6回分を限度として、施術1回につき、1000円の補助を行う。

敬老マッサージ師会をつくり、そこに所属している方の施術に対して利用できる。利用するには申請が必要。



こんにちは

坂口多美子です

2月7日、子どもの貧困について参加者とともに考えるシンポジウムを和歌山市で行いました。この問題に最前線を取り組んでいる田村智子参議院議員を迎えてのシンポジウム、用意した資料が足りなくなるほどたくさんの方が参加していただきました。「子どもに貧困の責任を押し付けてはいけない」「子どもの権利を土台に考える視点が必要だということ

改めて考える機会となりました。国会では3年前「子どもの貧困対策法」が全会一致で成立しました。和歌山県での具体化はまだされていないとのこと。どんな環境に生まれても生活や学習が保障され、将来に希望が持てるような社会にしていくために、子どもたちの力になる計画が策定されるよううしつかりと声を上げていきたいと思えます。



はたらく女性の和歌山県集会

2月20日(土) 13:40~16:00

勤労者総合センター

13:40~みんなのメッセージ
教育・くらし・医療・子育て・平和

14:15~ 記念講演

「戦争法廃止へ 今私たちができること」
石川 康宏氏(神戸女学院大学教授)

主催：働く女性の和歌山県集会実行委員会